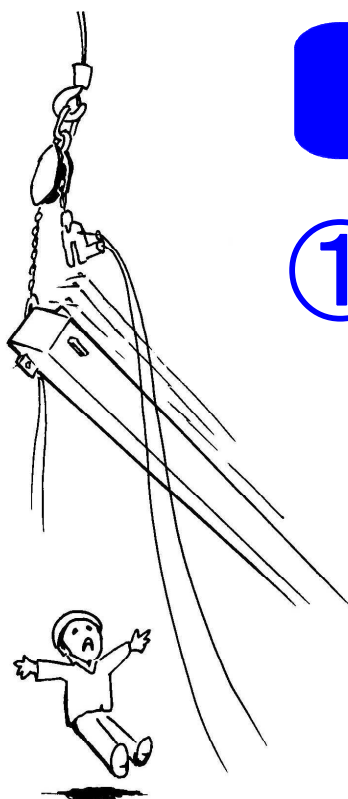
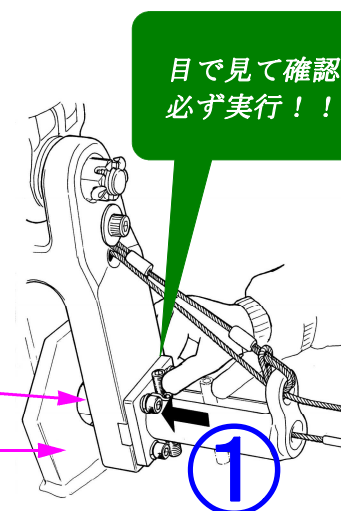


1 コラムロックは正しくセット さもないと… 外れる！！ 危険！！

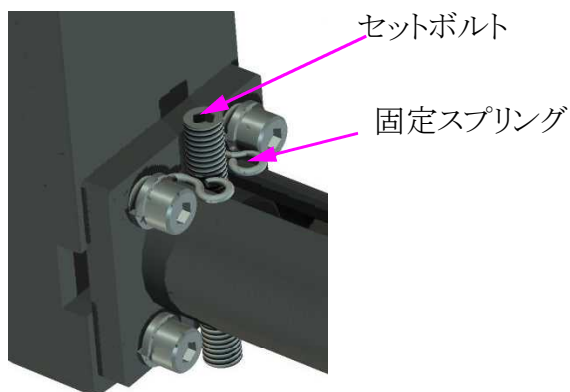
セットボルトを押してセットピンをピースの穴に通し、
コラムロックをピースにセットする時

① セットボルトは、途中で抵抗がありますが 最後までしっかり押し込みます

セットボルトを左下図に示す位置
(固定スプリングがセットボルト
を抱え込む位置)まで完全に
押し込みます。
ガチッと音がして、セットピン先端
部にロックが掛かります。



3 t 以外

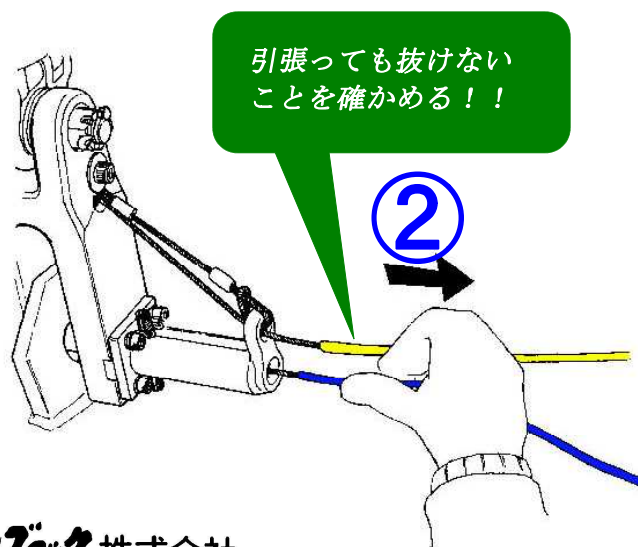


3 t 固定スプリング形状がやや異なります



② 青ワイヤを強く引いても 抜けなくなっていることを確認

黄ワイヤを引かず 青ワイヤだけ引いた
時は、セットピンの先端部がロック
されているので 強く (約 20 kg の力)
引いても動きません。
これで正しいセットの完了です。



象印 チェンロック 株式会社

2

ワイヤを引くとコラムロックは外れる！！
外れて欲しくない時ワイヤが引かれないよう厳重に注意
さもないと 外れる！！ 危険！！

建て起こしにかかる前、コラムが寝ている時

一度は確実にセットしても、ワイヤを触っているうちに黄色ワイヤを引っ張ってロック解除してしまうことがある。



建て起こしを始める時点でロック状態の再確認を必ず行って下さい。



つり上げ前は
ロックの再確認を！！

ロック状態の確認は、

セットボルトの位置を目視確認し・・・

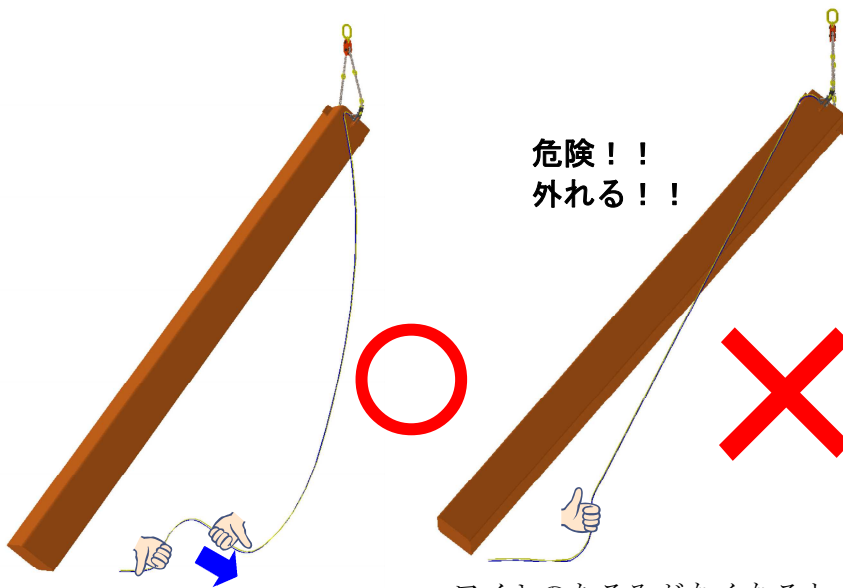
青ワイヤを強く引いて
セットピンが抜けてこないことを確認

コラムロックのセットが正しく出来ているか？
建て起こし作業で、玉掛けのたるみがあと少しになった時点で使用する全てのコラムロックについて確認をする。

確認したら放置せず、直ちに建て起こしに取りかかるのがよい。やむを得ず建て起こしを中断する場合は、再度、玉掛けのたるみが少しになった時点で、一旦停止・再確認！

セットピンに負荷が掛かっていると、ロックがちゃんと掛かっていないのにセットピンが動かない場合があります。玉掛けに少したるみの残っている状態で確認して下さい。

建て起こしや搬送でコラムロックが移動している時（1）



危険！！
外れる！！

コラムロックの移動に遅れず、常に十分なたるみを持たせるようにワイヤを送り出す

ワイヤのたるみがなくなると、引っ張っていることになる

コラムロックが移動するのにつれ、ワイヤも楽についていけるようたるみが確保されていれば問題ありませんが、

コラムが不意に予想外の動きをした

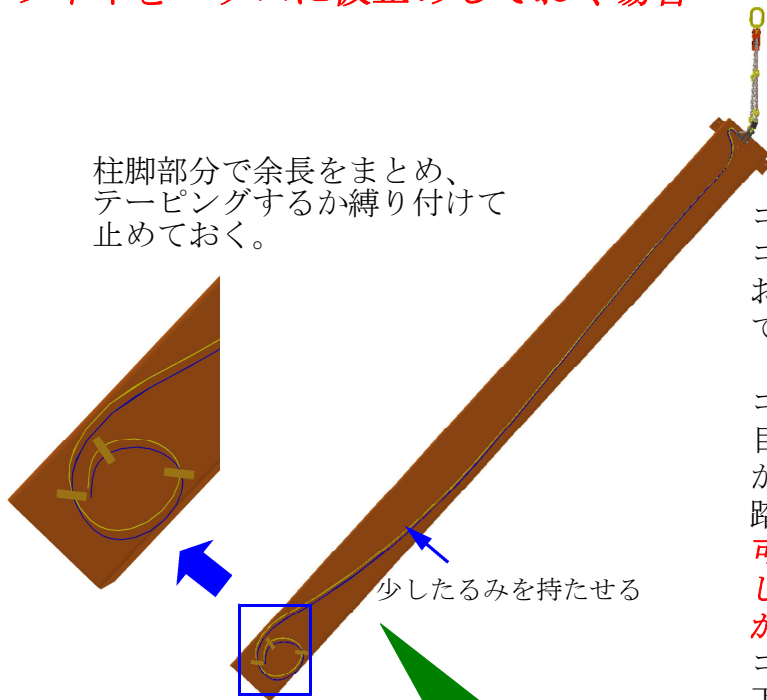
ワイヤを持っている人の足もとがふらついた

ワイヤを固定物に引っ掛けた

等でワイヤのたるみがなくなると、ワイヤを引っ張ったのと同じ事になってしまい危険です。

建て起こしや搬送でコラムロックが移動している時（2）

ワイヤをコラムに仮止めしておく場合



柱脚部分で余長をまとめ、テーピングするか縛り付けて止めておく。

少したるみを持たせる

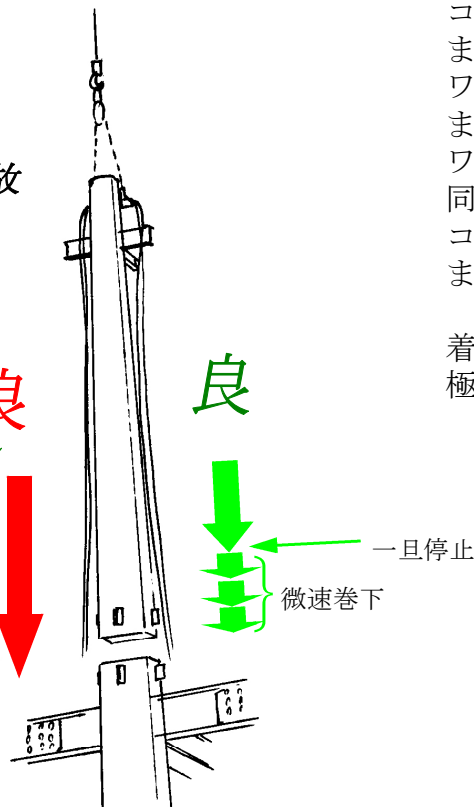
コラムの形状や現場状況は様々なので、コラムロックのワイヤをどのようにしておくのが最良かは、ケースバイケースです。

コラムが建て起こされ、移動搬送され、目的位置で玉掛けを外されるまで、ワイヤが無意識に引かれたり、引っ掛かったり、踏まれたりして **引っ張る力が働くような可能性が出るだけ少なくなるように**しておくと共に、**クレーンの運転合図者がワイヤの状態を常に監視しておく**ことでコラムロックの不意の外れ事故を防止して下さい。

建て起こし中・つり上げ中はワイヤに引張力がかからないように！！

着地衝撃も危険要因

高速のままの着地は、コラムロック使用中は特に危険。コラムロックの外れ事故につながります。



コラムの着地を減速せずにしてしまいますと、コラムロック本体が急停止し、ワイヤが跳ねて踊る状態になってしまいます。ワイヤが踊ると、ワイヤを引かれたのと同じ事になりますから、これもコラムロック外れ事故の原因になりかねません。

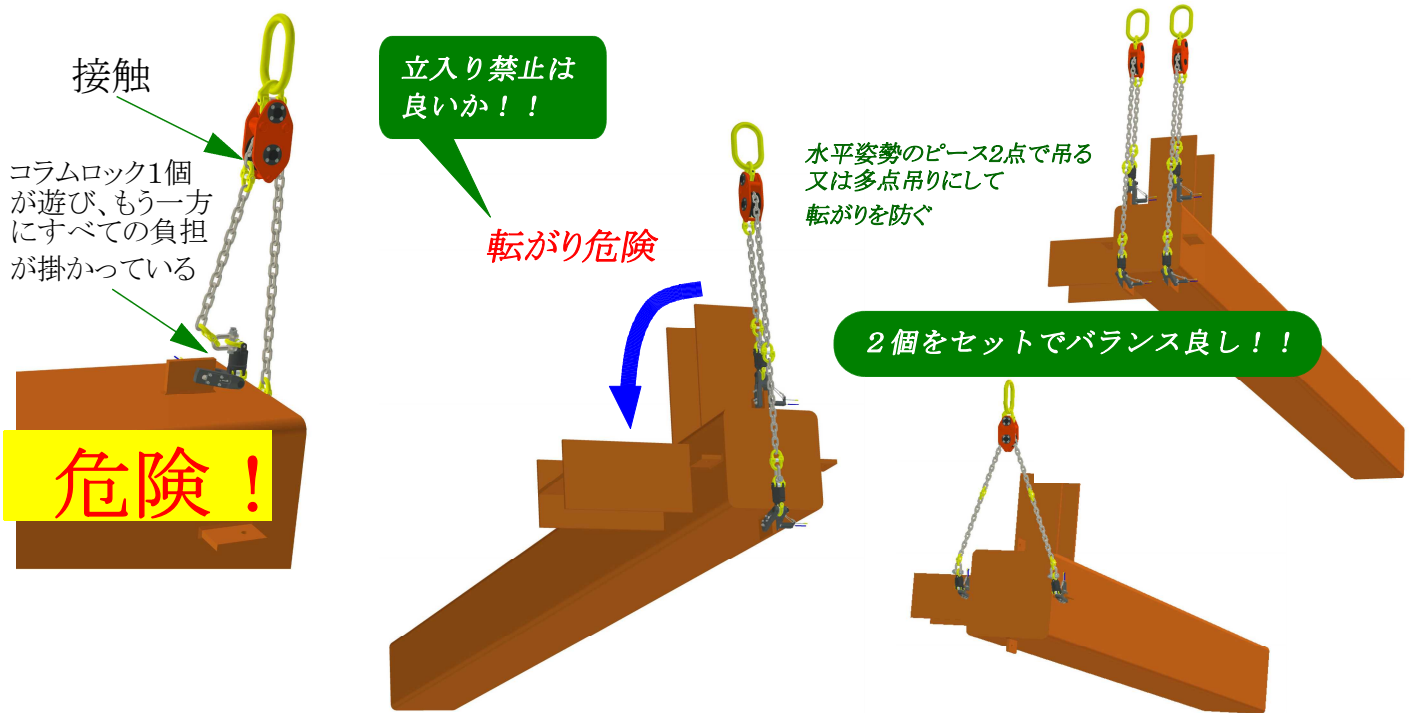
着地の際は、事前の一旦停止を必ず行い、極力衝撃の少ない着地として下さい。

つり荷を揺らしたり衝撃を与えない！！

コラムロック使用中は、**衝撃厳禁！！**

3 ピースの配置は強度検討・重心バランス検討を事前に行って決められています。 吊り方・コラムロック容量の指定がある場合 それらを確実に守って下さい

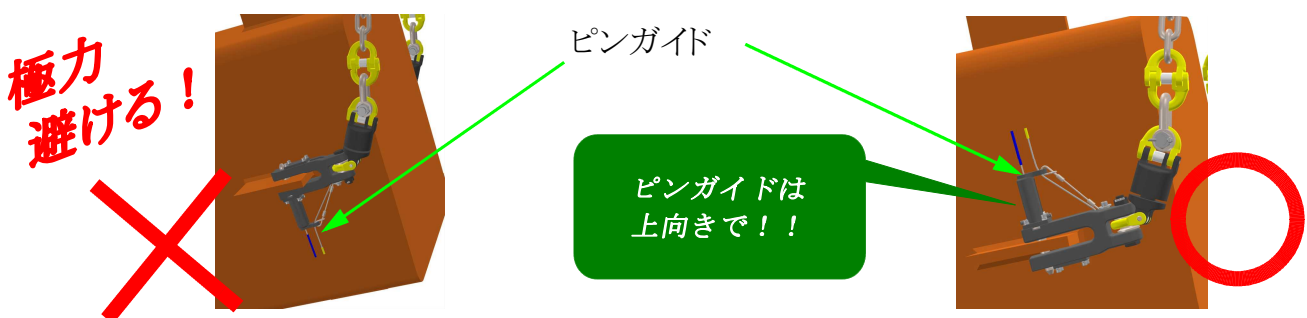
必ず 事前検討の上指示された 適切な容量のコラムロック・チェーンエコライザーを使用して下さい。
チェーンエコライザーや滑車を使って、2個のコラムロックに均等に荷重を掛けるセッティングの場合、片側が遊ぶ片効き（下左の図）になっていないか確認すること。



コラムの重心位置が極端にずれている場合、水平姿勢ピース2点吊りや多点吊りであっても転がりを完全に防止できないことがあります。

建て起こしの際には、つり上げを微速で慎重に行い、コラムが急激に回転を起こす不測の事態を考慮に入れ、**つり荷の下 及びその近辺を立入禁止**として下さい。

4 コラムロックを水平姿勢のピースにセットする場合、ピンガイドを上向きにして取り付けて下さい



ピンガイドがピースの下側になるセッティングは、セットピンが自重で抜け落ちようとする姿勢になり、セットピン脱落の危険性が高まります。可能な限り ピンガイド上向きでセットして下さい。

5 分解・給油・固定スプリングの調整については、勝手にやらず、必ず訓練を受けた人(業者)に依頼すること